



第3回学校運営協議会より

1月27日に今年度最後となる第3回学校運営協議会を開催し、委員の皆様には後期学校評価の結果や分析、今後の方策等についてお示しし、ご意見やご助言をいただきました。また、今年度の活動を振り返り、来年度の取組について意見交換をしました。以下の通りです。

- ・コミュニティセンターとして、学校と一緒にできることがあれば協力したい。(R7年度古民家再生作業の見学) また、コミュニティセンターからお願いすることもある。(R7年度：山城見学) 子どもたちと保護者が一緒に活動する取組も考えたい。
- ・子どもたちの学習等、地域から多くの協力をいただいている。一方、教職員数の少なさから、学校の環境整備等(花壇の整備・畑のお世話・校庭や学校周辺の草刈り等)で苦勞している。そのような実態から、今後は、地域の方々に協力していただきたいことをお知らせする等、ボランティアを募ることを考えていきたい。

具体的な取組方法等は決まっていますが、ご意見を参考にしながら、子どもを中心に据え「子どもたちのために」何ができるかを話し合っていきたいと思えます。(きっと「子どもたちのために」が、しいては「地域全体のために」につながっていくのだと思えます。)

学校と保護者や地域の皆様で、さらに知恵を出し合い、協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」の推進に努めていきたいと考えています。

委員の皆様には、本校と子どもたちのために多くのご理解ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

白山市の全小中学校では、学校運営協議会制度(コミュニティスクール)を取り入れています。コミュニティスクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのことです。

白峰の冬を満喫!! ~かんじきハイク~

白峰の冬の自然を体感し、雪に親しみを持つことや故郷への愛着を育むこと、また、雪深い白峰にとってなくてはならない「かんじき」を履いて歩く体験を通して文化の継承をしていくことをねらいとして、今年度初めて全校で「かんじきハイク」を行いました。場所は、白山ろく民俗資料館です。

初めて見たり履いたりする「かんじき」に興味津々の子どもたちですが、高学年でさえ、かんじきから長靴が外れないように縄でしっかりと結び付ける作業に大苦戦! 日常生活における子どもたちの紐で結ぶ経験の少なさを痛感しました。(紐を結ぶ様子を見てみると、力の入れ具合がわからず「ぎゅっと結ぶ」ということができていませんでした。紐で結ぶ経験や練習が必要です。)



ようやく準備が整い、かんじきを履いてふかふかの雪の上へ移動しました。かんじきを履いているおかげで、新雪の上でも膝からすねあたりまでしか埋まりません。帰りにかんじきを外して新雪を歩いたときに「ごぼる〜(埋まる)」



「歩きにくい」とロクに言い、かんじきの効果を体感できたようです。

かんじきを履いて普段は歩くことができない場所に行き、そこでお楽しみの「しり滑り」を体験しました。雪がないときは「崖」です。かなり急な坂



ですが、全員が何度も何度も滑ったり上ったりしながら「雪こんころ」になって冬の大自然を満喫しました。

時間が経つと、2人で滑ったり滑る姿勢を変えたりして工夫し始める様子も見られました。子どもたちは経験することで、もっと楽しくなるように自然と工夫し始めることを再認識し、経験することの重要性を改めて実感しました。



今回は、動物の足跡を見つけることも楽しみの一つとしていましたが、朝まで雪が降っていたこともあり、残念ながらそれは見つけれませんでした。それでも、普段できない体験を通して、雪国に育っていることへの喜びや楽しみを改めて感じる事ができたはず

です。ふるさと白峰への愛着がますます育った体験でした。

